北海道駒ヶ岳の火山活動解説資料（令和７年６月）

札　幌　管　区　気　象　台
地域火山監視・警報センター

火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○活動概況

・噴気など表面現象の状況（図１-①～③、図２～５）

山頂に設置した監視カメラでは、昭和４年火口でごく弱い噴気を観測しました。山麓に設置した監視カメラでは、今期間、噴気は観測されていません。引き続き、噴気活動は低調な状態です。

５月28日に実施した現地調査では、各火口の噴気や地熱域等の状況に特段の変化は認められませんでした。

・地震及び微動の発生状況（図１-④～⑥、図６）

火山性地震は少なく、地震活動は低調な状態です。

火山性微動は観測されていません。

・地殻変動の状況（図７～９）

GNSS連続観測では、2024年１月以降、特段の変化は認められていません。長期的には、山頂火口原付近を挟む基線で断続的に伸長傾向が続いています。

５月27日から30日にかけて行った山頂付近のGNSS繰り返し観測では、2015年頃から見られていた昭和４年火口付近を囲む基線の伸長傾向に鈍化が認められます。

この火山活動解説資料は、気象庁のホームページでも閲覧することができます。
https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php
本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。
https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/kazan/kazanyougo/mokuji.html
この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び北海道のデータも利用して作成しています。
資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図 50ｍメッシュ（標高）』、『電子地形図（タイル）』、『数値地図 25000（行政界・海岸線）』及び『基盤地図情報』を使用しています。
次回の火山活動解説資料（令和７年７月分）は令和７年８月８日に発表する予定です。

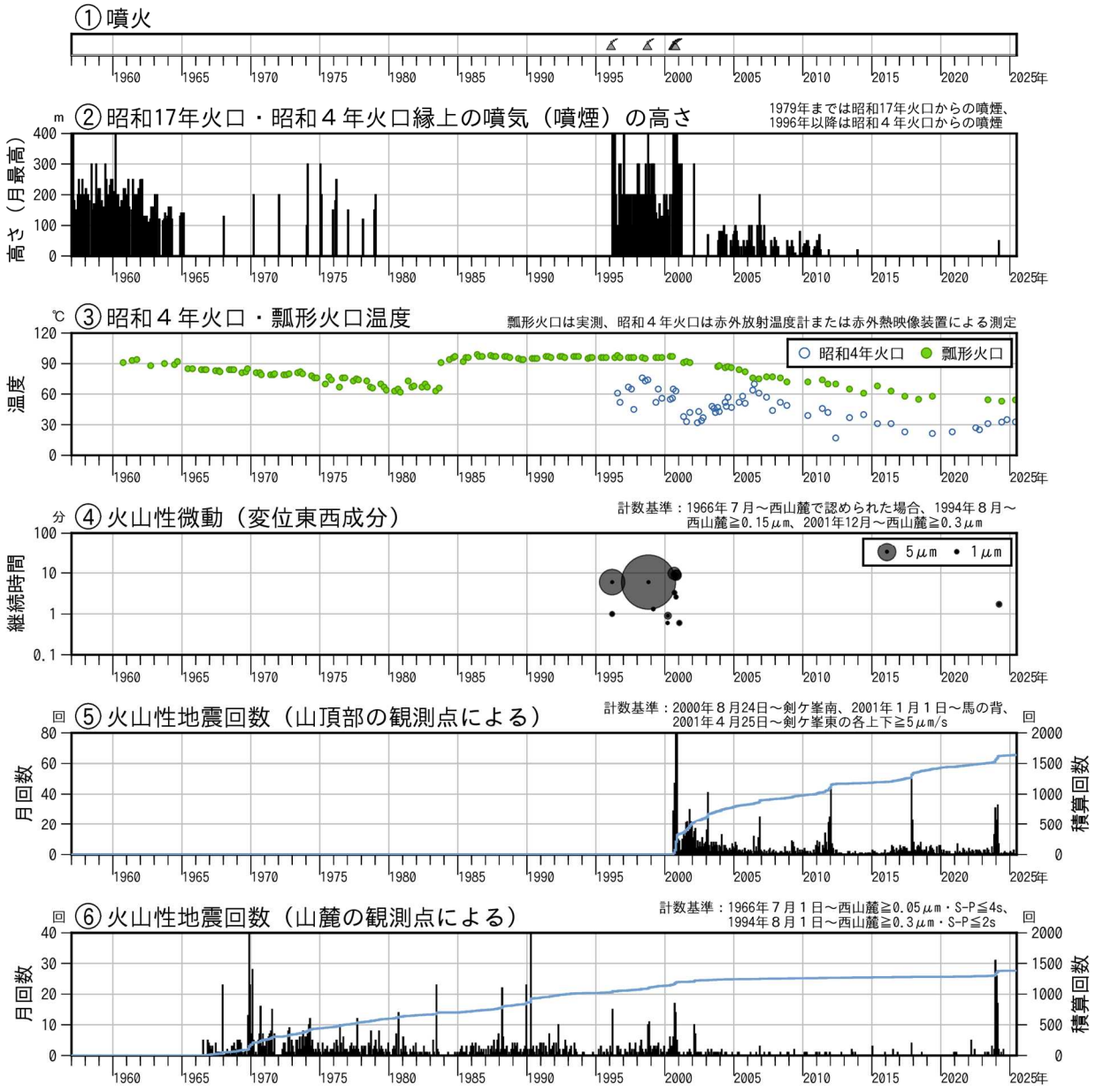


図１　北海道駒ヶ岳　火山活動経過図（1957年１月～2025年６月）

各火口の位置は図２を参照してください。

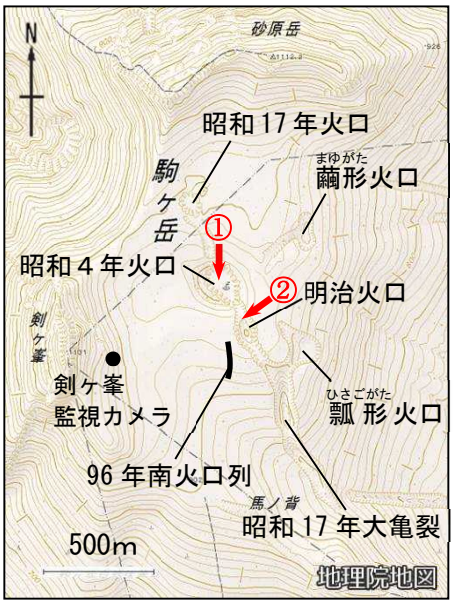


図２　北海道駒ヶ岳　火口周辺図と写真及び赤外熱映像撮影方向

図３　北海道駒ヶ岳　南西側から見た昭和４年火口付近の状況（剣ヶ峯監視カメラによる）

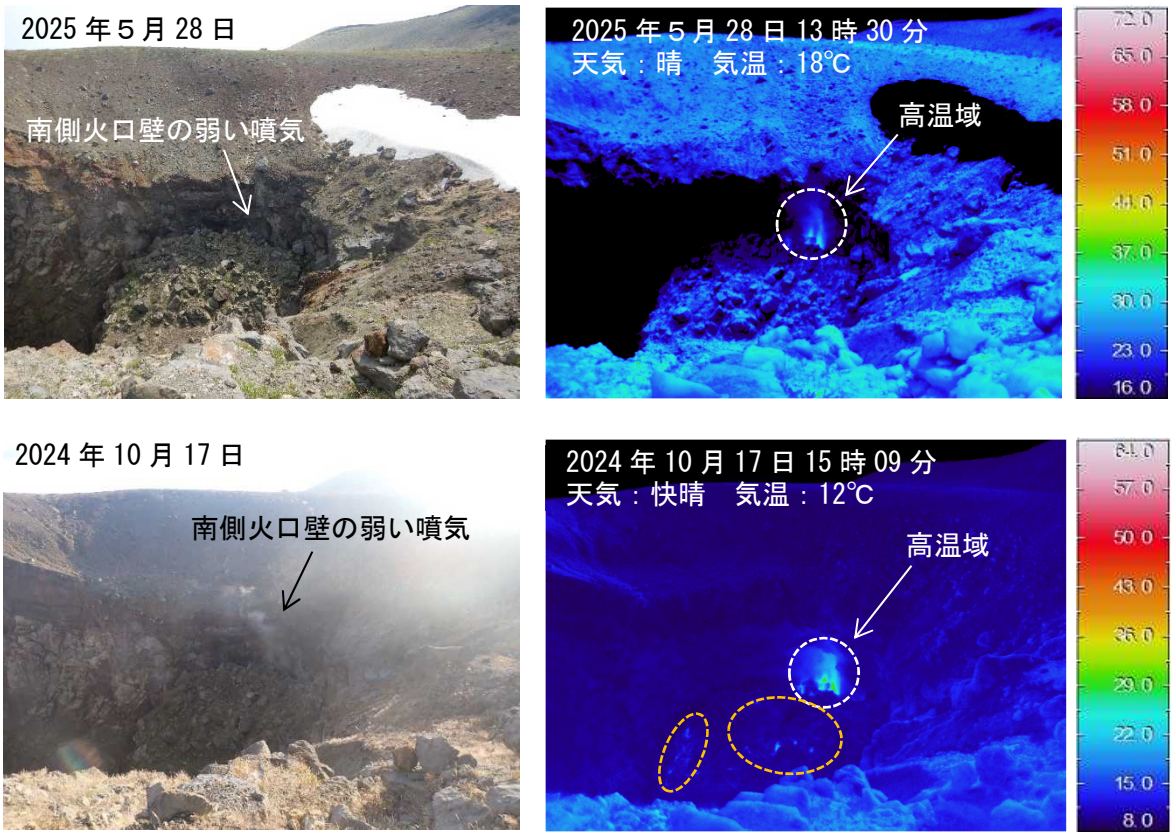


図４　北海道駒ヶ岳　赤外熱映像装置による昭和４年火口の地表面温度分布（撮影方向：図２の①）
・前回の観測（2024 年 10 月）と比べて、噴気の状況や地熱域の広がりに特段の変化はありませんでした。前回の観測で局所的に認められたやや温度の高い領域（橙破線内）は、日射の影響で明瞭には確認できませんでした。

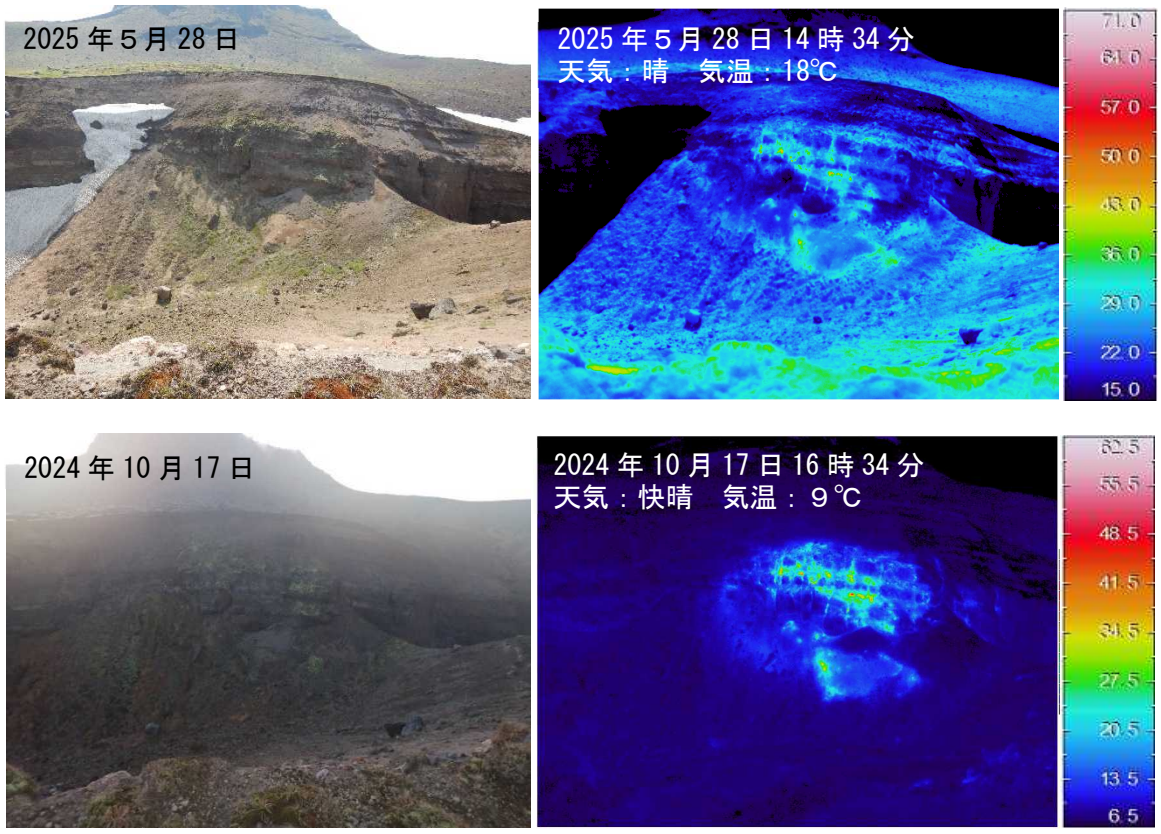


図５　北海道駒ヶ岳　赤外熱映像装置による明治火口の地表面温度分布（撮影方向：図２の②）
・前回の観測（2024 年 10 月）と比べて、噴気の状況や地熱域の広がりに特段の変化はありませんでした。

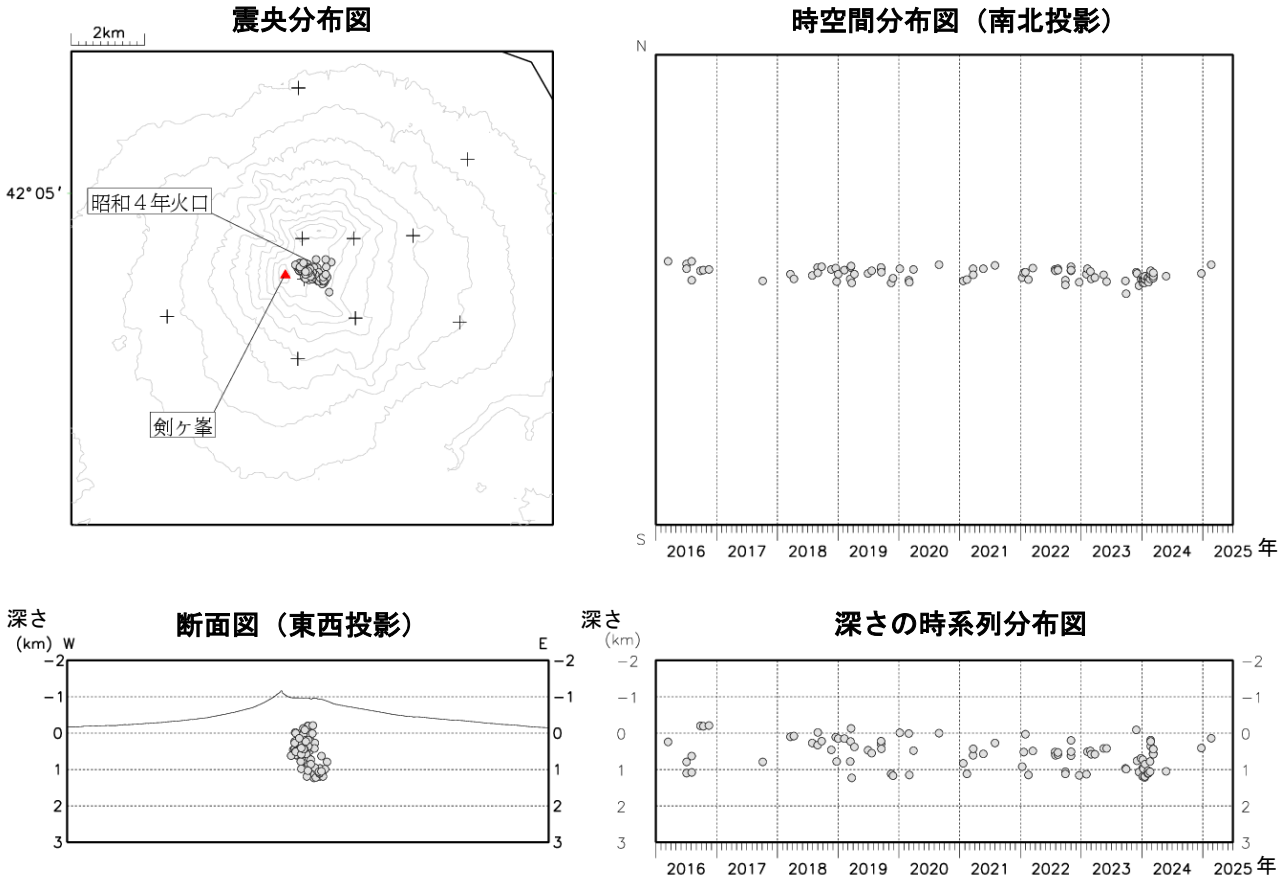


図６　北海道駒ヶ岳　火山性地震の震源分布（2016年１月～2025年６月）

●：2016年１月～2025年５月の震源　＋：地震観測点

・今期間、震源の求まった地震はありませんでした。

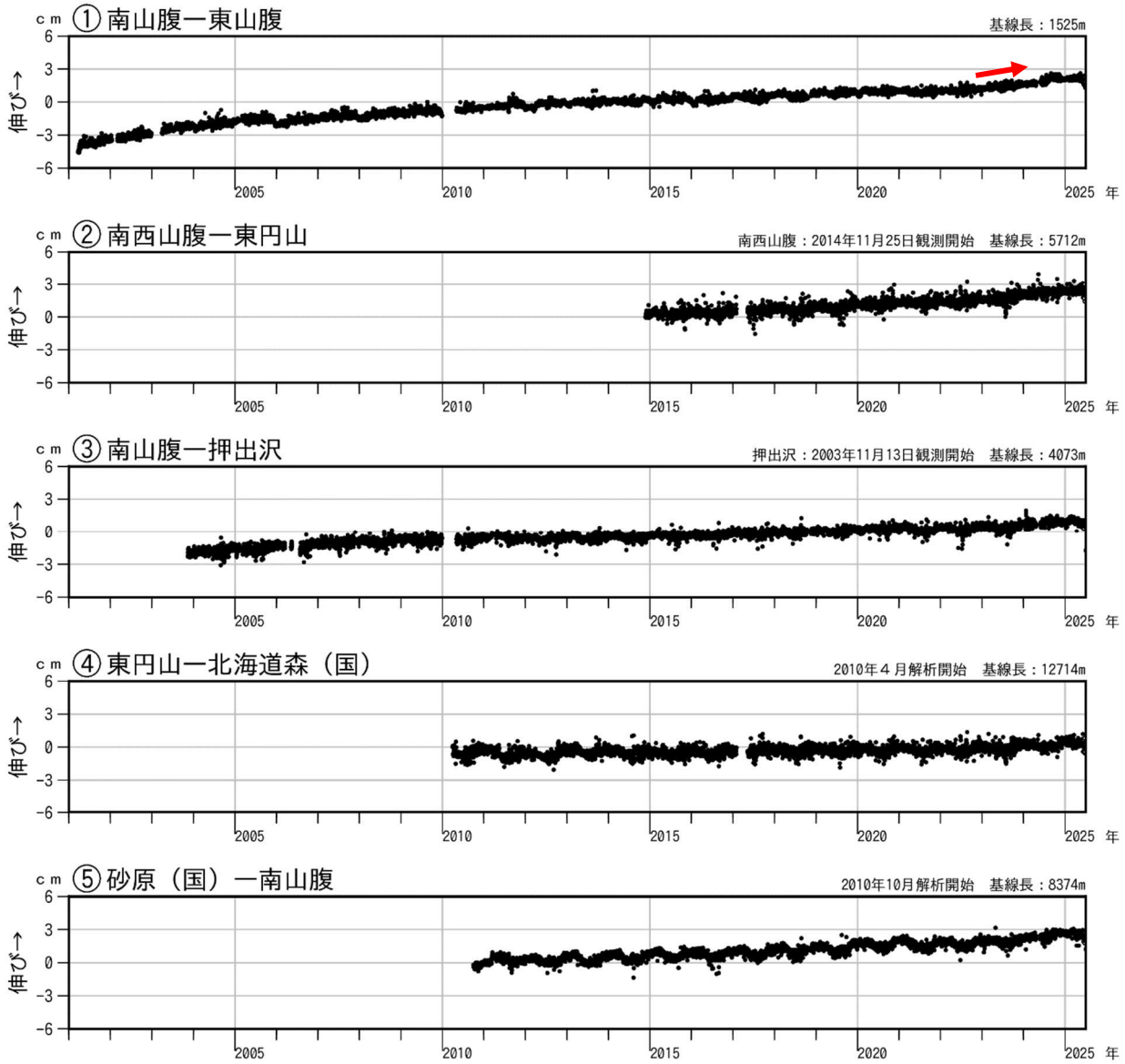


図７　北海道駒ヶ岳　GNSS連続観測による基線長変化（2001年４月～2025年６月）

グラフ①～⑤は図８の観測点配置図の基線①～⑤に対応しています。
グラフの空白部分は欠測を示します。

・2022年頃から山頂部の一部基線でわずかな伸長（赤矢印）が見られていましたが、2024年１月頃からは概ね停滞しています。

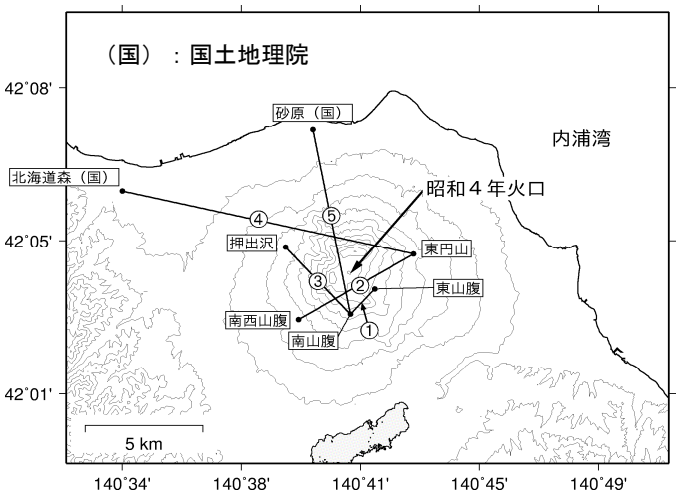
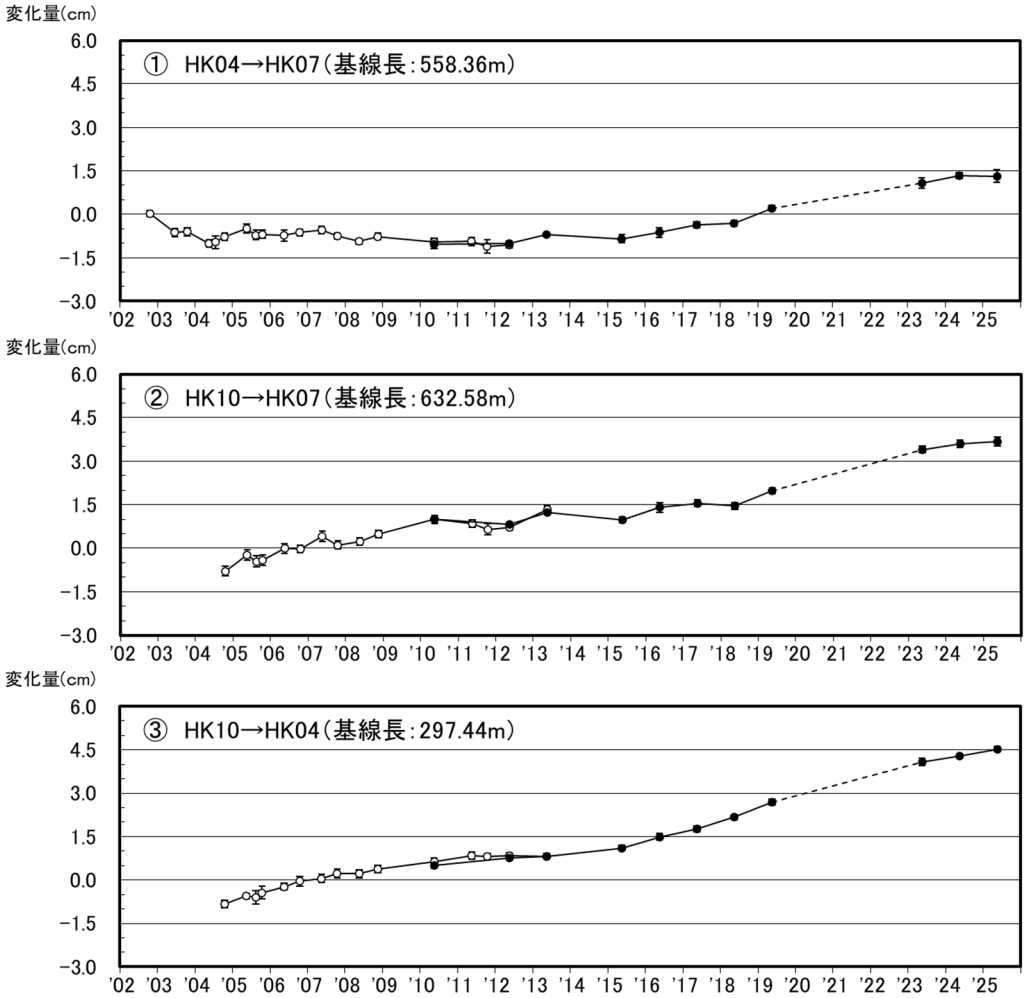


図８　北海道駒ヶ岳　GNSS連続観測の観測点配置図



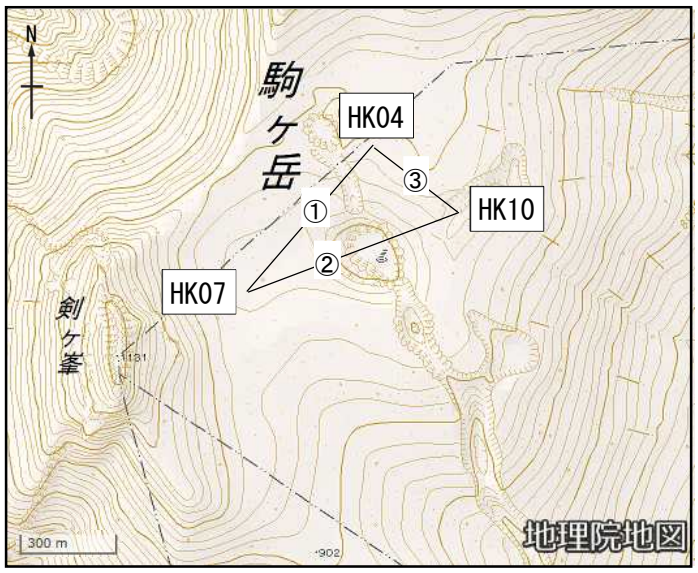


図９　北海道駒ヶ岳　GNSS繰り返し観測による火口付近の基線長変化（2002年４月～2025年５月）及び観測点配置図

GNSS基線①～③は観測点配置図の①～③に対応しています。
2013年に解析方法を変更しています。○は従前の解析方法での解析結果、●は新しい解析手法での解析結果を示します（2010年～2012年のデータを再解析した結果を含む）。
2023年の観測は2019年の観測との間隔が開いていることから、破線で描いています。

・昭和４年火口付近を囲む基線では、2004年以降断続的に伸びが見られ、2015年頃から伸長傾向が続いていましたが、昨年から今年にかけてはその傾向がやや鈍化しています。

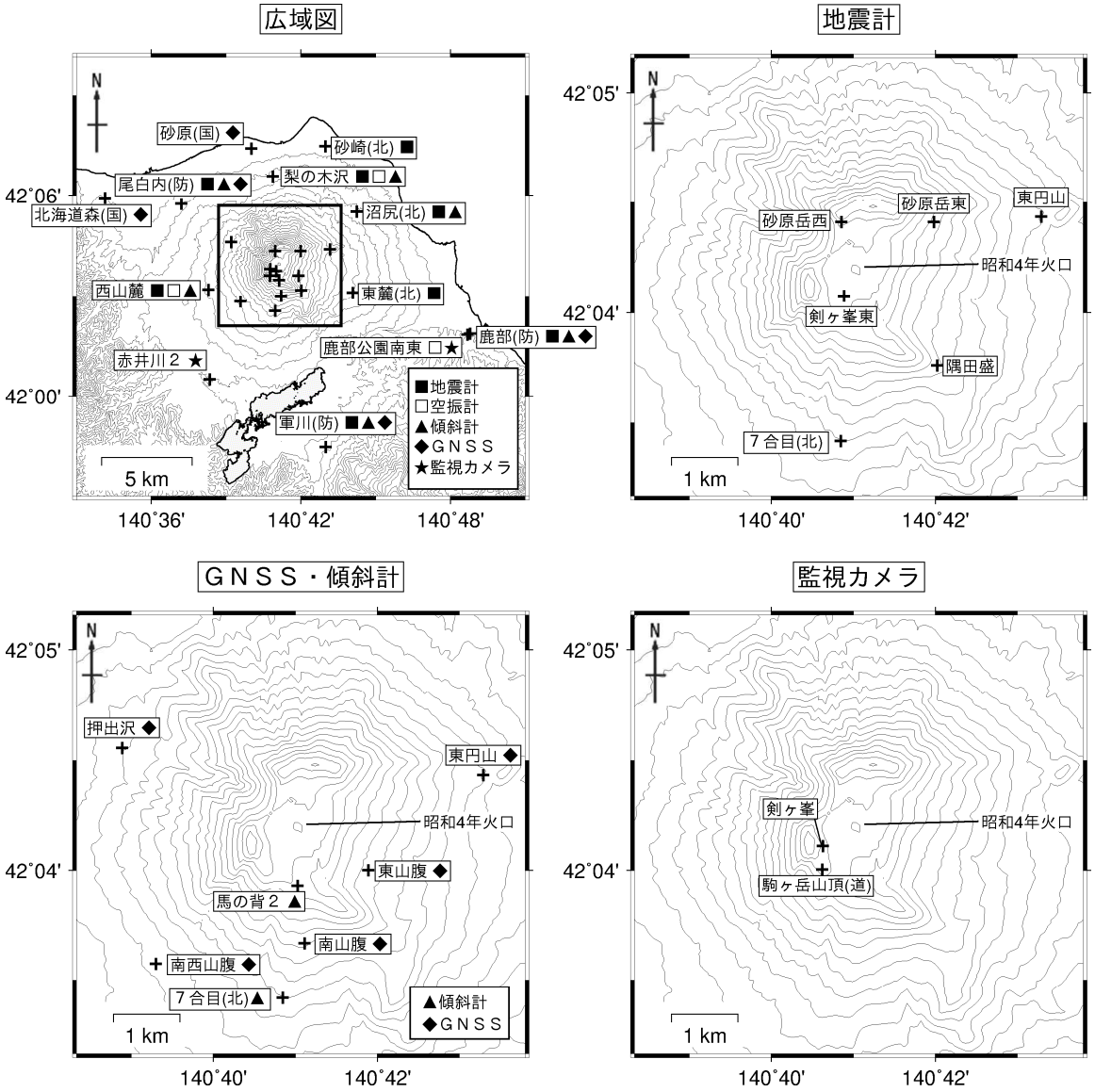


図10　北海道駒ヶ岳　観測点配置図

各機器の配置図は、広域図内の太枠線で囲まれた領域を拡大したものです。
＋印は観測点の位置を示します。
気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。
（国）：国土地理院
（北）：北海道大学
（防）：国立研究開発法人防災科学技術研究所
（道）：北海道